

誰もが抱える悩みをパパツと解決！



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

自分が興味・関心を持つていることに対して真剣に取り組む経験は、中学受験に向けた学習にも生きるものだと考えています。取り組んだ成果が誰かに評価されれば、それは大きな成功体験となり、「自分は頑張ればできるんだ」という自己肯定感にもつながります。こういった経験の原動力になるのは「好奇心」だと思います。今回は、子どもが持つ「好奇心」について書かせていただきます。

子どもの「好奇心」を応援する

「一番細長い国旗はどの国？」

先日、授業が終わった後、小学5年生の生徒が「明日テストなんだ」と声を掛けてきました。「あれっ、明日ってなんのテストだったけ？」と聞き返したら、「えへへ」という感じで帰っていきました。後でお母様から「あの子、『国旗検定』を受けたんですよ」と教えていただきました。しかも、最上位の「1級」を受験したということに驚いてしまいました。調べてみると、「国際知識検定 国旗」の1級は大人でも半分わかればすごいというほどの難度でした。

後日、「1級に高得点で合格した」とうれしそうに報告してくれました。クラスで「おめでとう！」と声を掛けると、少し照れくさそうに笑っていました。すると他の生徒から「どんな

問題が出るの？」と質問が飛び出しました。彼が「1級は難しいから、もう少し簡単な問題ね」と言っ出てくれたのは、「一番細長い国旗はどの国？」という問題でした。クラスの生徒たちが「えっ？」と声を上げるなか、「ネパールかな？」と誰かが言いました。答えは「カタール」だそうです。実は、私も残念ながらわかりませんでした。

こういった国旗についての細かな知識が中学入試で出題されることはあまりないでしょう。しかし、「国旗検定」のために彼が努力したことは、中学受験に向けた学習にも存分に生きると思います。さらに、いろいろな国の名前、歴史や文化的背景などを学んだことは、中学受験の先に続く未来でもきつと役立つはずです。彼の未来が世界に向けて広がっているような気がして、友達から「すごいねー」と言われてうれ

しそうにしている彼の顔を頼もしく思いながら見ていました。

好奇心が原動力



きつと彼は、何かのときにどこかの国の国旗を見て「面白いな」と思ったのでしょう。私は、この「面白いな」がお子様を成長させるスタートラインだと思っています。「面白いな」という気持ちは、「好奇心」と言い換えることができます。

「好奇心」とは、「未知のもの、未体験のこと、新しいものに対して興味・関心を持つこと」、私はそんなふうに考えています。

「好奇心の強さ」を表すものとして、「CQ=Curiosty Quotient」があります。「IQ」と呼ばれる「知能指数」は有名ですが、「CQ」は「好奇心指数」といわれており、現代を生きる人に必要なものとして評価されているようです。

そもそも子どもは「好奇心旺盛」なものです。人生における経験値がまだまだ少ないため、「経験したことがないもの」「新しいもの」が身の回りにあふれています。その一つひとつに触れるたびに、「これはなんだろう？」「なぜそうなのだろう？」という思いが湧き出てくるはずです。そのときの「なに？」「なぜ？」という気持が「好奇心」の源になるのです。単に学習や研究を進めるためだけでなく、豊かな人生を送るためにも、「好奇心」は大切なものになるでしょう。

余談ですが、「CQ」という考え方は「IQ」と比較するとまだ一般的ではないようです。研究者によっては「CQ=Creativity Quotient」として「創造的指数」とされている場合もあります。「CQ=Children Quotient」として「子ども力指数」とされている場合もあります。

保護者の皆様には、お子様が興味・関心を持つ対象を見極めて、それを応援していただきたいと考えています。興味の対象は、どんなものでもよいと思います。「うちの子は『鉄道』好きだけど、将来鉄道会社に勤務するとは限らないし、もっと勉強に役立つものの方が……」と思われるかもしれませんが、確かに、子どもの興味・関心の対象が必ずしも将来に直接役立つとは限りませんし、多くの場合、その対象自体が



成長するにつれて変わるものです。ただ、小学生のときに「好きなものを追求し、追究した」という経験は、新たなものに対する興味が湧いたときに必ず生きるはずです。

お子様が「好奇心」を刺激されたものを深く追求していくためには、保護者様の接し方も重要になります。単に「見守る」だけではなく、同じものに興味を持ち、一緒にワクワクしてみてください。自分が好きなものについて話しているとき、お父さんやお母さんが「ふーん、そうなんだ」ではなく「そうなの!? それは面白いねー」と答えてくれたら、お子様はうれしいのではないでしょう。

理科・社会に「興味・関心」を

中学受験という点で考えると、やはり理科・

社会に「興味・関心」を持って学習してほしいと思います。早稲田アカデミーでは、3年生から理科・社会の授業を行っています。パソコン

とプロジェクトを使って、映像や画像をホワイトボードに投影しながらの授業です。やはり理科・社会に関しては、テキストの写真を見るだけではなく、動画で確認することで、より高いレベルの「好奇心」を引き出せるようです。

かなり高い（難しい）レベルの学習内容も含まれますので、3年生の段階でそれらをすべて覚えて、定着させる必要はありません。それよりも、内容に「興味を持ち、関心を高めてほしい」というのが、授業の目的です。

「水溶液」の単元で「食塩と砂糖はどちらが先に溶けなくなるのか」という実験映像を見たときには、「自分でもやってみたい！」と言った生徒がいました。後日、お母様は「先生、うちの塩と砂糖が大量になくなったんです！」と楽しそうに教えてくださいました。

福田 貴一の
四つ葉café

公開中!

福田 貴一

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー

検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンのみ対応